

【今日の説教から】

主のお約束の通り、聖霊が注がれたペンテコステの日、聖霊によりペテロは力強い説教をしました。ヨエル書を引き、ダビデの言葉を引き、イエス様こそが「神は、主またキリストとしてお立てになった」方であることを証しし、人々の誤った考えと行いを明らかにしました。聞く人々は深く心を刺され、一日に三千人が主を信じて洗礼を受け、新たな仲間となりました。

「この曲った時代」。しかし教会には喜びと真心に満ちた愛し合い助け合う雰囲気が満ち溢れ、それが人々の好意を得、日々主は救われる人たちを仲間に加えて下さいました。

そんな中、「美しの門」で新たな奇跡が起こります。

生まれつき足の不自由な人が、日々援助者たちの手によってこの門のところに運ばれ、宮もうでにくる多くの人たちに施しを求めることで辛うじて生きる糧を得ていました。そんな中ペテロとヨハネがそこを通りかかりました。

彼らはこの美しの門に座る人に対して何を思って彼をじっと見つめたのでしょうか。そしてペテロからもまた「私たちを見なさい」と言いました。

「金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」金銀に勝る贈り物が与えられました。彼は大喜びで立ち上がり、飛び跳ねて喜び、神様をほめたたえて歩き回りました。彼の人生はイエス様の御名によって一変しました。主の御名には力があります。

皆様おはようございます。

相変わらず暑い日々ですが、皆様お元気にお過ごしでしたか。

鹿児島での地震は収まる気配がなく、ついに2週間で1300回を超える地震が起こっています。気が気でない方々を主がお癒しくくださいますようにと祈ります。

そして昨日は大きな災害が起こるかもしれないと言われており、海外の航空会社は日本へ行く便を一部取りやめたり、香港から日本に来る便などは不人気により、投げ売りのように販売されたと聞きます。しかし昨日の朝はいつものように静かに訪れ、今朝もすでに暑いですが、平穏な朝を迎え、何も変わらない一日の始まりというものが実は素晴らしいのだなあと気付かされるこの頃です。

さて、ペンテコステの出来事後、どのようなことが続いていったのか、聖書を読み進めてまいりましょう。

主のお約束の通り、聖霊が注がれたペンテコステの日、聖霊によりペテロは力強い説教をしました。ヨエル書を引き、ダビデの言葉を引き、イエス様こそが「神は、主またキリストとしてお立てになった」方であることを証しし、人々の誤った考えと行いを明らかにしました。聞く人々は深く心を刺され、一日に三千人が主を信じて洗礼を受け、新たな仲間となりまし

た。

「この曲った時代」。しかし教会には喜びと真心に満ちた愛し合い助け合う雰囲気が満ち溢れ、それが人々の好意を得、日々主は救われる人たちを仲間に加えて下さいました。

そんな中、「美しの門」で新たな奇跡が起こります。

3:1 さて、ペテロとヨハネとが、午後三時の祈のときに宮に上ろうとしていると、

3:2 生れながら足のきかない男が、かかえられてきた。この男は、宮もうでに来る人々に施しをこうため、毎日、「美しの門」と呼ばれる宮の門のところに、置かれていた者である。

3:3 彼は、ペテロとヨハネとが、宮には行って行こうとしているのを見て、施しをこうた。

宮に、生れながら足のきかない男が、かかえられてきました。この人は毎日このようにして人々の手を借りなければ動くことが出来ず、そしてこの往来の多い宮の入り口にて、宮に来る多くの人々に施しを求めて、そしてその施しによってその命をつないでいるのです。これが彼の生きる道でした。他に彼の人生にとっての選択肢はなかったことでしょう。彼は、自分は何のために生まれてきたのだろうか悩んだこともあったと思います。自分の足で立って、自分の力で生きる。誰もがしていることを、彼は生まれながらにすることが出来ませんでした。父を、母を、そして神様を恨んだのでしょうか。祈り願い続けたのでしょうか。しかし長い長い間、彼はそのようにして運ばれ、座り、施しを乞い求め、そうやって彼は生きてきました。そして生涯彼には回復の見込みがなかったことでしょう。

ヨハネによる福音書の9章にも生まれつきの障害を持った人のことが記されてあります。

9:1 イエスが道をとおっておられるとき、生れつきの盲人を見られた。

9:2 弟子たちはイエスに尋ねて言った、「先生、この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか」。

9:3 イエスは答えられた、「本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。

9:4 わたしたちは、わたしをつかわされたかたのわざを、昼の間にしなければならない。夜が来る。すると、だれも働けなくなる。

9:5 わたしは、この世にいる間は、世の光である」。

9:6 イエスはそう言って、地につばきをし、そのつばきで、どろをつくり、そのどろを盲人の目に塗って言われた、

9:7 「シロアム（つかわされた者、の意）の池に行って洗いなさい」。そこで彼は行って洗った。そして見えるようになって、帰って行った。

9:2 弟子たちはイエスに尋ねて言った、「先生、この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか」。

このように弟子たちが、本人を前にして、いささか意地悪く聞こえるように思うのですが、しかしこれは彼らの常識であったようです。身から出た錆と言いますか、因果応報と言いますか、人が何か不幸を刈り取るのはその原因があるからだという考えが浸透していました。しかしイエス様は言われました。

9:3 イエスは答えられた、「本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。

ラザロの墓の前で人々が悲しみ泣くのを見て心を震わせ共に涙を流されたイエス様は、ここでも恵みの御業を成してくださいました。イエス様はその身に私たちのすべての煩いも病も悲しみも受け取って、身代わりの死を十字架に遂げてくださいました。

ヨハネ 3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

3:17 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。

3:4 ペテロとヨハネとは彼をじっと見て、「わたしたちを見なさい」と言った。

3:5 彼は何かもらえるのだらうと期待して、ふたりに注目していると、

3:6 ペテロが言った、「金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」。

3:7 こう言って彼の右手を取って起してやると、足と、くるぶしとが、立ちどころに強くなって、

3:8 踊りあがって立ち、歩き出した。そして、歩き回ったり踊ったりして神をさんびしながら、彼らと共に宮にはいって行った。

ペテロとヨハネとは彼をじっと見て、「わたしたちを見なさい」と言いました。

ペテロとヨハネは自分に注目を集め、自分の称賛を求めようとしたわけではありません。彼らは凡庸な普通の人、金銀もない、いわば貧しいものでしたが、彼らとはとてもないものを持っていました。それがナザレのイエス・キリストの御名です。主はナザレの田舎に育たれました。「ナザレから、なんのよいものが出ようか」(ヨハネ 1:46)と言われるような小さ

な村でした。こうしてイザヤ53章の予言は成就したのです。

53:1 だれがわれわれの聞いたことを／信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか。

53:2 彼は主の前に若木のように、かわいた土から出る根のように育った。彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない。

53:3 彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。

53:4 まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。

53:5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。

53:6 われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。

53:7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。

53:8 彼は暴虐なさばきによって取り去られた。その代の人のうち、だれが思ったであろうか、彼はわが民のとがのために打たれて、生けるものの地から断たれたのだと。

53:9 彼は暴虐を行わず、その口には偽りがなかったけれども、その墓は悪しき者と共に設けられ、その塚は悪をなす者と共にあった。

53:10 しかも彼を砕くことは主のみ旨であり、主は彼を悩まされた。彼が自分を、とがの供え物となすとき、その子孫を見ることができ、その命をながくすることができる。かつ主のみ旨が彼の手によって栄える。

53:11 彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。義なるわがしもべはその知識によって、多くの人を義とし、また彼らの不義を負う。

53:12 それゆえ、わたしは彼に大いなる者と共に／物を分かち取らせる。彼は強い者と共に獲物を分かち取る。これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、とがある者と共に数えられたからである。しかも彼は多くの人の罪を負い、とがある者のためにとりなしをした。

ルカ 4:15 イエスは諸会堂で教え、みんなの者から尊敬をお受けになった。

4:16 それからお育ちになったナザレに行き、安息日にいつものように会堂にはいり、聖書を朗読しようとして立たれた。

4:17 すると預言者イザヤの書が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を出された、

4:18 「主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わた

しを聖別してくださったからである。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ、

4:19 主のめぐみの年を告げ知らせるのである」。

4:20 イエスは聖書を巻いて係りの者に返し、席に着かれると、会堂にいるみんなの者の目がイエスに注がれた。

4:21 そこでイエスは、「この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した」と説きはじめられた。

1 ペテロ 2:21 あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。

2:22 キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。

2:23 ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。

2:24 さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。

2:25 あなたがたは、羊のようにさ迷っていたが、今は、たましいの牧者であり監督であるかたのもとに、たち帰ったのである。

主イエス様の癒しと再生と救いの力は今日も大きな力を持っています。主の贖い、身代わりの死と復活、主のご愛と恵みは全て頼れる、失望したおれる人を支え起こす力です。私達もまた、このイエス様の御名による力を信じて、イエス様が私たちのためになされたことが現実的な大きな力であることを信じて、このお方をお伝えする働きに進み続けたいと願います。

3:9 民衆はみな、彼が歩き回り、また神をさんびしているのを見、

3:10 これが宮の「美しの門」のそばにすわって、施しをこうていた者であると知り、彼の身に起ったことについて、驚き怪しんだ。

ペンテコステの日に弟子たちが習いもしない言葉で語り続け、聖霊が語らせるままに神様の偉大なお働きをあがめて証したように、何とも説明のつかないことが起こるのです。

2:43 みんなの者におそのの念が生じ、多くの奇跡とするしとが、使徒たちによって、次々に行われた。

こう書いてあるようなことが今日も起こるのです。そして多くの人々にも神様を畏れかし

こむ心が生じ、日々仲間が加えられるのです。私たちもこのことを確かに信じて、イエス様の御名を携え、本気でイエス様を信じて、共に進ませていただきたいと願うのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。イエスキリストのお名前には絶大なる力があることをお教えくださいます、ありがとうございます。金銀を多く持つ人はたくさんいたとしても、私たちはそれに勝るイエスキリストのお名前、この救い主との個人的な関係を持っていますから、本当にありがとうございます。どうぞ失意の中に座り込む方々へ私たちをお遣わしてください。キリストの御名によって手を取って立ち上がっていただけますように。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン